



～現代にも響く“美”のメッセージ～

# 中原淳一展

© JUNICHI NAKAHARA / HIMAWARIYA

2021年10月29日(金)～  
2022年2月23日(水・祝)

休館日 / 毎週水曜、12月29日～31日  
(2021年11月3日、2022年2月23日の両祝日は開館)

開館時間 / 9:30a.m. ～ 5:00p.m. (入館は4:30p.m.迄)

入館料 / 大人 700円 (560円) 中高生 300円 (240円) 小学生 100円 (80円)

※( )は10人以上の団体料金

【主催】宝塚市 宝塚市教育委員会 【後援】 Kiss FM KOBE エフエム宝塚

【協力】株式会社ひまわりや

宝塚市立 手塚治虫記念館

THE OSAMU TEZUKA MANGA MUSEUM

兵庫県宝塚市武庫川町7-65 〒665-0844 ☎0797(81)2970

手塚治虫記念館に生かされる宝塚市のふるさと納税にご協力お願いします。

# 中原淳一をご存知ですか？

一言で表現すれば「美しく生きる」術を発信し続けたアーティストですが、

その仕事内容は多岐にわたるため、とても一言では言い表せません。戦前は

雑誌の表紙絵や挿絵などを手掛けていましたが、戦後は自らが編集者とな

って雑誌『それいゆ』を創刊しました。「読者がいつのまにか本当の意味での

美しい暮らしを知り、優しい美しい、賢い女性になっていくような本」を目指した

中原淳一の信念のもとにつくられたこの雑誌は、戦後の荒廃の中で夢を忘れた女性たちを

魅了しました。その後も「ひまわり」「ジュニアそれいゆ」などの雑誌を発刊し、ファッショ

ンだけにではなく、ライフスタイル、心の持ち方まで幅広い分野から「常に美しくあれ」と

のメッセージを発信し続けました。今回の企画展では「世の中がどう変わっても、美しいものは変わらな

い」という強い信念を持った中原淳一が伝え通した接点も紹介。またそれぞれが伝えたメッセ

ージにも注目します。

当時、直接影響を受けた世代の方には、あの頃を懐かしんでいただくのは

もちろんのこと、男性女性を問わず幅広い世代の方々にも、この継承されて

いるメッセージを感じ取っていただきたいと思います。



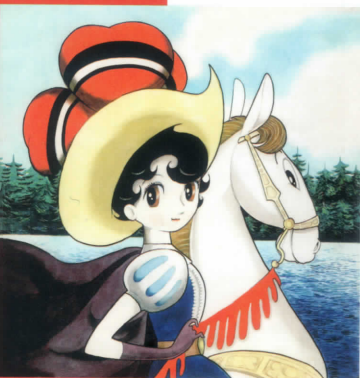
「それいゆ」  
第37号 春号  
表紙(1956年)



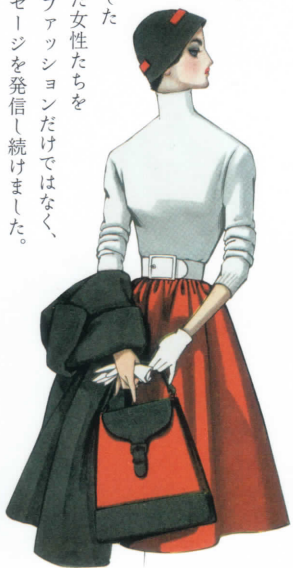
『宝塚おとめ』  
1940年度版より

「リボンの騎士」  
(手塚治虫)

「なかよし」  
1965年1月号扉絵



©TEZUKA PRODUCTIONS



「それいゆ」  
第36号より

© JUNICHI NAKAHARA / HIMAWARIYA



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館者の皆様にはマスク着用等のご協力をお願いしています。ご来館の際は、手塚治虫記念館HPをご確認ください。

T H E  
SAMU  
TEZUKA  
MANGA  
MUSEUM

宝塚市立 手塚治虫記念館



T H E  
SAMU  
TEZUKA  
MANGA  
MUSEUM

宝塚市立 手塚治虫記念館



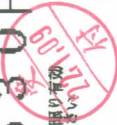
00143

(ADULT) 22.-1.-9

大人入館券

工割引 630円

に限り有効  
1. 本券は有効日より1名様1回限り有効  
2. 本券はお帰りのまでお待ちください



14:32

001